【研究資料】

少年期の野球選手の入団および卒団時の意識

大室康平 [1)]，鵜瀬亮一 [2)]

The research of the attitudes
of young baseball players when joining and leaving the team

Kohei OMURO[1)], Ryoichi USE [2)]

Abstract

The environment for youth sports is changing, including a decline in the number of players. The aim of this study was to obtain the knowledge necessary for baseball coaching.

We conducted a questionnaire survey on pupils and students who joined or left a baseball team to investigate their attitudes as baseball players when they joined or left the team. The number of respondents to the questionnaire related to joining the team was 4,521 in total, including 614 elementary school pupils, 2,424 junior high school students, and 1,483 senior high school students. The number of respondents to the related to leaving the team was 4767 in total, including 739 elementary school pupils, 2645 junior high school students, and 1383 senior high school students. The total number of people joining and leaving was 9288.

The survey results: 1. The player's motivation for joining the club was not only because he/she loves baseball, but also because of the influence of his/her friends and other people around the player. 2. It became clear that both at the time of joining the club and at the time of leaving it, there were concerns and worries about balancing baseball with studies.

Key words：Baseball, young baseball player, coaching
キーワード：野球，少年野球選手，コーチング

1）八戸工業大学
〒031-8501　青森県八戸市妙字大開 88-1
2）新潟医療福祉大学
〒950-3198　新潟県新潟市北区島見町 1398

1．緒　言

近年，少年期のスポーツを取り巻く環境は，少子化による競技人口の減少や，教員の働き方改革に伴う中学校の部活動の地域移行など，大きな変化が起きている．日本において多くの競技人口を誇った，「野球」においても様々な課題が見られている．

スポーツの競技人口の調査結果によると,「2021 年の 10 代の野球の推計人口は 137 万人であり, 2001

年の 282 万人から約半数となった」とされている（笹川スポーツ財団，2021）．日本高校野球連盟が発表した 2023 年度の加盟校数，部員数調査（5 月末現在）の結果によると，硬式野球部員は前年度から 2902 人減って 12 万 8357 人となり，9 年連続で減少している(朝日新聞，2023 年 7 月)．他にも，少年野球（小学生）のチームついて「2009 年には全国で 18 万 0058 人いた選手数が，昨年は 11 万 0756 人と 38.5%も減少して」おり，「市町村によっては少年野球チームが 1 つもないところも出てきている」とされ，少子化の割合は「2009 年の小学生(6～11 歳)人口は 749 万人，2022 年は 615 万人だから 17.9%」以上に野球競技人口の減少が大きいことも指摘されている(広野，2023)．これまでのスポーツ界を考えると，厳しい指導のもとに淘汰するような指導があったと考えられる．少子化による競技人口の減少は，直ちに変えることは難しいが今後は社会環境の変化に応じて，スポーツの指導も，選手が求めるものを考慮して行われる必要も出てくるだろう．

野球に関するアンケート調査は，これまでに数多く行われている．特に野球選手の障害の予防を目的として，調査した報告が多い．鈴木ほか（2016）は，中学硬式野球選手の肘関節の障害についてアンケート調査と医学的検査を行い，26%に過去の肘関節既往歴があったことを報告している．また藤井ほか(2003）は，高校野球選手 67 名に対し障害の有無と，小中学生時の練習について調査を行い，72%が肘や肩の痛みを経験していたこと，障害を有する群の小中学生時の練習時間が，有しない群に比べて長かったことを報告している．また桑田ほか（2010）は，現役のプロ野球選手にアマチュア選手時代の練習の状況に関するアンケート調査を行い，有効回答数 190 名のうち，約半数が高校時にオーバーワークによるケガを経験したことがあると回答をした結果から，過剰な練習が 10 代の選手にとってオーバーワークとなり，選手生命を脅かすことにつながると指摘している．これらのように，野球による障害を予防するための，調査は多く行われているが，野球を始める動機や，野球経験から得られたことに関する意識調査のような研究は少ない．特に野球人口を支える 10 代に対する調査結果は，今後の野球界を考える上でも大変重要な示唆を含んでいると考えられる．

そこで本研究では，野球のチームに入団(入部)，および卒団（卒部）した児童，生徒に質問紙によるアンケート調査結果から，野球選手の入団時や卒団時の期待や得たものについて分析し，今後の野球指導に必要な知見を得ることを目的とした．

２．方　法

2.1 被験者

本研究は，X 県において，定期的に行われている野球選手に対するアンケート調査のデータを使用した．対象は X 県の小学生，中学生，高校生年代の各野球チーム（各クラブチーム，中学校，高等学校）

に所属する選手とした．アンケート調査は 2019 年と 2021 年（2020 年は新型コロナウイルスの影響で未実施）に実施された．

入団アンケートの回答者数は，小学生 614 名，中学生 2424 名，高校生 1483 名の合計 4521 名．卒団アンケートの回答者数は，小学生 739 名，中学生 2645 名，高校生 1383 名の合計 4767 名であった．入団と卒団を合わせた合計数は，9288 名であった．

対象者，および指導者にアンケート調査の目的，データの使用に関する説明を行い，同意を得てアンケートに回答させた．

2.2 調査内容

本調査は，定期的に X 県においてチーム（少年野球，中学野球，高校野球など）への入団時に該当する選手（児童，生徒）と卒団時の選手を対象に行われている．質問内容は，所属団体（少年野球，中学野球，高校野球など）・性別・地域（X 県内の地域）と X 県内の野球に関する取り組み（野球手帳，肘検診など）の受講や認知度の他に，入団時，卒団時に異なる項目になっている．

本研究で結果に使用した項目は，表 1-1（入団アンケート），表 1-2（卒団アンケート）に示した．

表 1-1　入団時アンケート（○：全員回答，●：該当者のみ回答）　＊数字は質問紙の番号

番号	質問内容
1	○これまで野球チームに所属した（入っていた）ことはありますか
2	●（質問 1 で「①今回初めて所属した（入った）」と回答）今回入団，入部した理由は何ですか（順位を付けて 3 つまで）
3	●（質問 1 で「②所属していた（入っていた）ことがある」と回答）初めて野球チームに入団，入部したのはいつですか
6	○一番好きな（やっていて楽しい）技術は何ですか
7	○一番苦手な（むずかしい，できればうまくなりたい）技術はなんですか
8	○続けていく上で不安なことや心配なことはありますか
9	○今後いつまで野球を続けたいと思っていますか

表 1-2　卒団アンケート（○：全員回答，●：該当者のみ回答）　＊数字は質問紙の番号

番号	質問内容
2	○野球をやって良かったと思いますか

3	●（質問２で「①大変良かった」または「②良かった」または「③どちらかといういと良かった」と回答した人）　良かったことは何ですか（順位を付けて３つまで）
4	○特に嬉しかった瞬間はどんな時ですか（順位を付けて３つまで）
5	○今後野球を続けていくつもりですか
6	●（５で「①続ける」と回答した人）　どこまで本格的に（趣味，同好会，サークル等は除く）野球を続けていきたいと考えていますか
7	●（５で「②続けない」と回答した人）　入団，入部当初の気持ちはどうでしたか
8	●（７で「②今後も続けるつもりだった」または「③続けるかどうかは決めていなかった」と回答した人）　続けないことにした理由は何ですか（順位を付けて３つまで）
9	○野球をやっていく中で特に悩んだことはなんですか（順位を付けて３つまで）

2.3 分析方法

入団および卒団アンケートの各質問項目について，年代（少年野球，中学野球，高校野球）毎に単純集計を行い，割合を算出し比較を行った．.

3. 結　果

3.1 入団アンケート

3.1.1 入団の時期と理由

今回初めて入団した（チームに所属し野球を始めた）のは，小学生 79.0 %(485 名)，中学生 25.5 %(618 名)，高校生 1.8 %(26 名)であった.

またそのうち今回初めて入団した理由（表 2）の上位 3 つは,「野球が好きだから・楽しいから」が 31.2%（小：23.6%，中：24.2%，高：45.8%）,「友達がやっているから・誘われたから」13.9%（小：20.2%，中：15.2%，高：6.3%),「自分を成長させたいから」8.8%（小：4.4%，中：13.7%，高：8.3%）であった．各年代で順位をみると，小学生では 1，2 位は全体と変わらず，3 位は「親にすすめられたから」で 11.9%，中学生も 1，2 位の順位は全体と変わらず，3 位は「他のスポーツに比べて面白そうだから」が 14.1%であった．高校生では 1 位は全体と変わらず，2 位が「プロ野球や甲子園などあこがれの舞台に立ってみたいから」10.4%，3 位は全体の 3 位と並び「レギュラーになって活躍したいから」8.3%であった.

今回初めて入団していない選手の入団の時期は，小学生では小学 1,2 年時が 42.8%，小学 3,4 年時が

38.2%，小学 5,6 年時が 19.1%であった．中学生では，小学 1,2 年時が 2 7.6%，小学 3,4 年時が 44.5%，小学 5,6 年時が 27.0%，中学での入部は 0.9%であった．高校生では，小学 1,2 年時が 15.9%，小学 3,4 年時が 47.4%，小学 5,6 年時が 29.6%，中学生時が 7.2%であった．全体で見ても，45.4%が小学 3,4 年時に初めて入団している．

表 2．入団・入部の理由

単位：%

順位	●２入団・入部の理由	小学生	中学生	高校生	全体
1	野球が好き、楽しい	23.6	24.2	45.8	24.3
2	友達がやっている、誘われた	20.2	15.2	6.3	17.4
3	他のスポーツに比べて面白そう	7.0	14.1	0.0	10.5
4	自分を成長させたい	4.4	13.7	8.3	9.2
5	親にすすめられた	11.9	4.5	2.1	8.0
6	お兄さんなど兄弟がやっている	10.0	4.8	6.3	7.3
7	レギュラーになって活躍したい	6.7	7.6	8.3	7.2
8	プロや甲子園などあこがれの舞台に立ちたい	7.3	5.2	10.4	6.3
9	強いチームに入って勝ちたかった	3.1	3.1	4.2	3.1
10	なんとなく	2.3	3.9	2.1	3.1
11	友達をたくさん作りたい	2.3	1.5	6.3	2.0
12	その他	1.0	2.0	0.0	1.5

3.1.2　技術面の楽しさ，難しさ

「一番好きな（やっていて楽しい）技術」（表 3-1）は，52.7%が「バッティング」と回答している．バッティングは，すべての年代で 1 位である(小：61.6%，中： 49.7%，高：53.9%)．次いで「スローイング・ピッチング」で 16.9%である．次に「ゴロ捕球」の 12.1%である．

「一番苦手（難しい，できればうまくなりたい）技術」（表 3-2）は，20.7%が「バッティング」と回答している．次いで「ゴロ捕球」で 20.1%である．さらに「走塁」の 16.8%である．年代別の 1 位は，小学生は「ゴロ捕球」で 16.7%，中学生は「バッティング」で 21.3%，高校生は「ゴロ捕球」で 23.3%であった．

表 3-1　一番好きな技術

単位：%

順位	○6　一番好きな技術は？	小学生	中学生	高校生	全体
1	バッティング	61.6	49.7	53.9	52.7
2	スローイング（ピッチングを含む）	12.0	16.0	20.4	16.9
3	ゴロ捕球	6.9	13.4	12.2	12.1
4	フライ捕球	7.1	10.4	6.0	8.5
5	走塁	8.2	5.0	3.7	5.0
6	バント等の小技	4.0	4.2	2.7	3.7
7	その他	0.2	1.3	1.1	1.1

＊数値の下線は各年代の 1 位

表 3-2　一番苦手な技術

単位：%

順位	○7　一番苦手な技術は？	小学生	中学生	高校生	全体
1	バッティング	16.3	21.3	21.6	20.7
2	ゴロ捕球	16.7	19.0	23.3	20.1
3	走塁	12.5	17.0	18.1	16.8
4	バント等の小技	15.2	16.8	13.7	15.6
5	スローイング（ピッチングを含む）	13.2	12.7	16.6	14.0
6	フライ捕球	24.1	11.8	5.1	11.2
7	その他	2.0	1.4	1.7	1.6

＊数値の下線は各年代の 1 位

3.1.3　野球を続けていくうえで不安や心配なこと

「今後いつまで野球を続けたいか」は，34.3%が高校硬式まで（小：20.9%，中：25.1%，高：55.0%）で最も多かった．また小中学生のうち，26.7%は中学野球までと回答した．

「続けていくうえで不安や心配なこと」（表 4）については全体の 26.8%が「勉強との両立」である．次いで 22.5%が「けが・故障」である．さらに「体力がない」が 14.1%である．年代別の 1 位は小

学生が「けが・故障」で 17.5%，中学生は「勉強との両立」で 26.6%，高校生も同じく「勉強との両立」で 31.7%であった．

表 4　続けていくうえでの不安や心配

単位：%

順位	○8 続けていくうえでの不安や心配	小学生	中学生	高校生	全体
1	勉強との両立	16.6	26.6	31.7	26.8
2	けが・故障	17.5	21.7	26.3	22.5
3	体力がない	13.2	14.9	13.0	14.1
4	自分の精神的な弱さ	11.0	8.6	8.1	8.8
5	お金、送迎など保護者（親）への負担	5.3	6.5	8.5	7.0
6	友達ができるか、チームになじめるか	4.8	3.4	1.6	3.0
7	監督、コーチが厳しい	2.9	1.1	1.0	1.3
8	その他	1.2	1.3	0.7	1.1
9	保護者（親）に反対されている	0.3	0.3	0.1	0.2

＊数値の下線は各年代の 1 位

3.2 卒団アンケート結果

3.2.1　野球をやっていて良かったこと

「野球をやって良かったと思いますか」は 70.5 %が「大変良かった」と回答した.「良かった」は 22.5 %,「どちらかというと良かった」は 5.5 %であった.

また野球をやっていて「良かったことは何か」（表 5-1）という質問に対し,「よい友達ができた」が 18.9%と最も多かった（小：21.3%，中：17.7%，高：19.7%）．次いで「人間的に成長できた」が 13.6%（小：5.3%，中：13.4%，高：18.6%）,「努力することの大切さを知った」が 12.0%（小：10.8%，中：12.2%，高：12.2%）と続いた．年代別に見ると，小学生では，1 位は全体と同じ「よい友達ができた」，2 位は「勝つ喜びを知った」で 14.8%，3 位は「努力することの大切さを知った」であった．中学生，高校生は全体の順位と同じであった.

野球をやっていて「特に嬉しかった瞬間はどんな時ですか」（表 5-2）に対しては,「試合に勝てたとき」が 25.6%と最も多く（小：25.9%，中：24.6%，高：27.4%）．次いで「チームに貢献できたとき」が 17.1%（小：12.4%，中：17.1%，高：19.7%）,「いいバッティングができたとき」が 16.8%（小：

20.6%，中：17.5%，高：13.5%)と続いた．年代別に見ると，すべての年代で，1 位は全体と同じで「試合に勝てた」，2 位は小学生，中学生は「いいバッティングができた」，高校生は「チームに貢献できた」，3 位は小，中学生は「チームに貢献できた」で高校生は「友人と喜びを分かち合えたとき」で 14.2%であった．

表 5-1 野球をやって良かったこと

単位：%

順位	○3　良かったことは何ですか	小学生	中学生	高校生	全体
1	よい友達ができた	21.3	17.7	19.7	18.9
2	人間的に成長できた	5.3	13.4	18.6	13.6
3	努力することの大切さを知った	10.8	12.2	12.2	12.0
4	勝つ喜びを知った	14.8	11.9	9.6	11.7
5	あいさつ、返事など良い習慣が身に付いた	10.3	11.5	10.8	11.1
6	よき指導者に会えた	8.2	7.9	6.6	7.6
7	体力がついてたくましくなった	10.0	8.2	4.6	7.4
8	ますます野球が好きになった	9.8	6.3	4.2	6.2
9	親への感謝の気持ちが強くなった	4.9	5.6	6.2	5.6
10	精神的に強くなった	4.3	5.0	7.4	5.6
11	その他	0.3	0.3	0.2	0.3

＊数値の下線は各年代の 1 位

表 5-2 野球をやっていて特に嬉しかった瞬間

単位：%

順位	○4　特に嬉しかった瞬間	小学生	中学生	高校生	全体
1	試合に勝てたとき	25.9	24.6	27.4	25.6
2	チームに貢献できたとき	12.4	17.1	19.7	17.1
3	いいバッティングができたとき	20.6	17.5	13.5	16.8
4	友人と喜びを分かち合えたとき	7.5	12.0	14.2	11.9
5	いい守備（投球、捕手のリード含む）ができたとき	11.6	9.9	8.0	9.6

6	うまくなったことを実感できたとき	8.6	7.5	9.4	8.2
7	指導者にほめてもらったとき	7.0	6.0	4.4	5.7
8	いい走塁ができたとき	2.4	2.7	1.5	2.3
9	親にほめてもらったとき	3.6	2.2	1.8	2.3
10	その他	0.4	0.4	0.1	0.3

＊数値の下線は各年代の１位

3.2.2　今後の継続

「今後野球を続けていくつもりですか」について，年代別に見ると小学生は「続ける」が 85.0%,「続けない」が 15.0%，中学生は「続ける」が 59.5%,「続けない」が 40.5%，高校生は「続ける」が 38.2%,「続けない」が 61.8%であった.「続ける」と回答した人に対する「どこまで本格的に野球を続けるか」という質問には，小学生では「高校(硬式・軟式)まで」が 33.4%（うち高校硬式が 31.0%）で最も多く，中学生も「高校(硬式・軟式)まで」が 54.3%とであった．高校生は「大学(硬式・軟式)まで」が最も多く 39.2%であった.

また今後野球を「続けない」と回答した人を対象とした,「入団，入部当初の気持ちはどうでしたか」については，全体で見ると「続けるかどうかは決めていなかった」が最も多く 55.2%(小：66.7%，中：58.6%, 高：49.5%), 次いで「最初から野球はここまでと決めていた」が 35.2%(小：22.9%, 中：32.2 %, 高：40.6%)であった.「入団，入部当初の気持ちはどうでしたか」の質問に「今後も続けるつもりだった」,「続けるかどうかは決めていなかった」と回答した人の「続けないことにした理由」を表６ に示した．全体では「十分満足した」が 14.5 %で最も多く，各年代の一位は，小学生では「他のスポーツをやってみたい」が最も多く 20.4%，中学生では「十分満足した」が 13.3%で最も多かった．高校は「あとは趣味の範囲で野球を楽しみたい」で 17.9%であった.

表６　野球を続けないことにした理由

単位：%

順位	○８　続けないことにした理由	小学生	中学生	高校生	全体
1	十分満足した	11.1	13.3	16.9	14.5
2	あとは趣味の範囲で野球を楽しみたい	3.5	9.9	17.9	12.5
3	他のスポーツをやってみたい	20.4	12.8	7.9	11.4

4	ほかにやりたいことがある	12.4	10.4	11.2	10.8
5	自分の実力はここまでと思った	7.1	10.0	11.1	10.2
6	勉強に力をいれたい	4.0	6.7	7.3	6.8
7	次の野球部は厳しそう	5.3	7.7	2.8	5.7
8	体力的に自信がない	7.1	7.1	3.3	5.7
9	お金がかかる	1.3	2.3	4.6	3.1
10	親に負担をかけたくない	3.1	2.4	3.6	2.9
11	精神面で自信がない	6.2	3.5	1.3	2.8
12	疲れてしまった	1.8	2.6	2.6	2.6
13	肩、肘などの故障がある	2.7	1.2	4.3	2.5
14	自分は野球に向いてないと思った	4.0	3.3	0.9	2.5
15	うまくなれない,レギュラーになれない	1.8	1.6	1.2	1.5
16	その他	1.8	1.3	0.8	1.2
17	楽しくなかった。野球が好きではなくなった	1.8	1.4	0.5	1.1
18	人間関係（新しいチームメイトとうまくやっていく自信がないなど）	2.2	1.0	0.4	0.8
19	家庭の事情	1.3	0.8	0.7	0.8
20	試合に勝てなかった	0.4	0.5	0.2	0.4
21	病気など健康上の事情	0.9	0.3	0.3	0.3

＊数値の下線は各年代の１位

3.2.3　野球をやるなかで悩んだこと

「野球をやっていく中で悩んだことは何か」（表 7）については,「勉強との両立」が 16.7%と最も多く（小：11.1%, 中：18.4%, 高：16.7%）. 次いで「うまくならない, レギュラーになれない」が 15.4%（小：13.4%, 中：14.7%, 高：17.6%）,「ケガ」が 14.6%（小：14.1%, 中：13.7%, 高：16.6%）と続いた. 年代別の 1 位は小学生が「ケガ」, 中学生は「勉強との両立」, 高校生は「うまくならない, レギュラーになれない」, であった.

表７　野球をやっていく中で特に悩んだこと

単位：%

順位	○９　野球をやっていく中で特に悩んだこと	小学生	中学生	高校生	全体
1	勉強との両立	11.1	18.4	16.4	16.7
2	うまくならない、レギュラーになれない	13.4	14.7	17.6	15.4
3	ケガ	14.1	13.7	16.6	14.6
4	試合に勝てない	13.9	10.3	9.0	10.4
5	特に悩んだことはない	17.8	9.9	5.1	9.6
6	野球に取られる時間が長い	7.6	6.7	6.5	6.8
7	精神的に苦しい	4.1	5.6	8.3	6.2
8	体力的に苦しい	6.3	7.0	4.6	6.2
9	お金、送迎など親に迷惑をかける	3.8	4.8	6.6	5.2
10	指導者との相性	2.6	3.7	5.4	4.1
11	友達との人間関係	3.1	3.6	2.9	3.3
12	その他	1.6	1.1	0.7	1.1
13	親の反対	0.6	0.6	0.1	0.5

＊数値の下線は各年代の１位

４．考　察

野球チームへの入団時期は，全体の 45.4%が小学校 3，4 年時であり，半数近くの選手は，小学校の 3，4 年時期に野球を開始していることがわかる．新規に入団した選手が野球を始める理由は，「野球が好きだから・楽しいから」が 30%を超えている．競技の開始の動機のためには，まずはその競技を好きになること，指導する側の立場で考えると，好きである環境を作ることが重要であると考えられる．また全体の理由の２位として，「友達がやっているから・誘われたから」が挙げられた．その競技が好きであることに次いで重要であることが，友達に代表される仲間の存在である．子どもたちに三間（時間，空間，仲間）がないと表現される言葉もあるが，「仲間」の存在がスポーツチームへの入団を促す可能性が考えられる．中学生の柔道部員の入部動機について調べた尾形ほか（1990）は，入部者の 57.1%が親や友達など他者からすすめられて，入部していることを報告している．

好きな技術はバッティングが最も多く，50%を超えていた．バットという道具を使い，投球されたボールを打つという技術は，野球やソフトボールのようなベースボール型球技に特徴的である．回答の割

合から考えても，このバッティングの楽しさが，野球の楽しさの大きな柱になると考えられる．一方で，「苦手，難しい技術」にもバッティングが挙げられるということは，この難しさも野球の大きな特徴であると考えられる．また苦手な技術の 2 位に挙げられているのが，「ゴロ捕球」であり，バッティングと僅差であった．接近するボールに対して，動作を合わせるという点が共通される部分はあるが，この辺りは具体的にどのような部分が苦手なのかを調べることで，技術的な指導に活かすことができるだろう．

野球の継続に関しては，30%以上が高校硬式までと回答し，最も多かった．また継続の上で，不安や心配事と考えているのは，勉強との両立であり，各年代で見ると，中学生，高校生でもトップであった．小学生年代では，「勉強との両立」に不安と感じているのは，16.7%であり，2 位であった．高校生年代までの野球に限らず，勉強との両立を心配している競技者は多いと考えられる．

卒団アンケートの結果から，野球をやっていて，「大変良かった」と「良かった」と回答した人は，全体の 93%（4430 人）であった．小学生は 95%，中学生は 91%，高校生は 96%であった．野球をやった 9 割以上は良かったと感じているという結果であった．具体的な良かったことは，「よい友達ができた」がすべての年代で 1 位に挙げられており，入団の動機にもあったような仲間の存在が重要であると考えることができる．「人間的に成長できた」については，小学生では割合は低かったものの，年代が上がるにつれて高くなった．野球の活動の中で得られたものがあったのだろうと考えられる．「特に嬉しかった瞬間はどんな時ですか」の質問において，高校生の 2 位が「チームに貢献できた」，3 位が「友人と喜びを分かち合えた」という点からも，特に仲間とのかかわりあいの中に喜びや良かったことを見出している可能性が考えられる．

今後の野球の継続については，高校生の 6 割以上が続けないと回答し，また小中学生でも大部分は高校までが最多を占めている．これらのことから，「高校野球」が一つの本格的な野球の区切りになっていることがわかる．大学生の運動部への入部理由について調査をした須崎ほか（2016）の研究によると，1087 名の回答者のうち高校で運動部に所属していたが大学で運動部に入部していない学生は 39.1%であったことを報告している．本研究とは，割合が異なっているが，大学で本格的な運動部活動を続けないという学生が半数前後はいるということがわかる．高校生は，野球でいえばいわゆる「甲子園大会」という存在が大きいということも考えられる．

悩んだことの多くは，「勉強との両立」であった．小学生に比べて中高生で割合が高くなっている．また高校生の 1 位は「うまくならない，レギュラーになれない」である．チームの状況による比較は行うことができていないが，高校野球において技術面の課題を感じている選手が多いと考えられる．

プロ野球選手を対象にしたアンケート調査を行った桑田ら（2010）の研究によると，オーバーワークによるケガを経験したプロ野球選手は，中学時代で 43%，高校では 51%であったと報告している．本

研究の結果，野球をやるうえで悩みの原因の上位となっているケガは，プロ野球選手の半数近くも経験しており，スポーツ活動を考えるとケガはつきものではあるが，それをいかに予防していくかは，特に少年期の野球選手にとっては重要な部分であると考えられる．

５．結論

本研究では，小中高年代の野球選手に対して，アンケート調査を行った結果を考察した．その結果以下のことが明らかになった．

1. 入部の動機には野球が好きであることに加えて、周囲の人の影響があること
2. 入部時も、卒部時も「勉強との両立」に悩みや不安を抱えていること
3. 本格的な野球は高校までと考えている割合が高いこと

多くの卒団，卒部生は,「野球をやって良かった」と回答していることから，野球を経験した満足度は高かったと考えられる．それに加えて，勉強の両立などの不安が低減されるような環境を整えていくことが、野球に限らず少年期のスポーツ環境にとって重要であると考えられる．

参考文献

朝日新聞デジタル （2023） 高校の硬式野球部員，9 年連続減で 12 万 8 千人に
https://www.asahi.com/articles/ASR745VQ1R74PTQP007.html （2023 年 7 月 4 日）

広尾 晃 （2023）「子どもの野球離れ」保護者の重すぎる負担の深刻 東洋経済オンライン
https://toyokeizai.net/articles/-/698602 （2023 年 9 月 3 日）

桑田真澄，川名光太郎，間仁田康祐，平田竹男（2010）アマチュア野球の抱える課題に関する研究―現役プロ野球選手に対するアンケートをもとに―- スポーツ産業学研究, 20,1,pp91 - 95

藤井康成，赤嶺卓也，栫博則，東郷泰久，山口聡，小倉雅，貴島稔，岡野智裕，福島佳織，有島善也，小宮節郎（2003）高校野球選手に対するメディカルチェックの検討 ―障害に関するアンケート調査の結果から― 52 巻 4 号 pp 712-719

尾形敬史　沢畑好朗　添田孝幸　朝倉美広　菅原則之（1990）中学校柔道部員の入部動機と柔道の効果に対する意識について　茨城大学教育学部紀要（教育科学）39 号 pp51－64

笹川スポーツ財団　(2021)10 代の野球人口
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/data/baseball_teens.html

須崎康臣，入部祐郁，杉山佳生，斉藤篤司（2016）
大学における運動部の実態調査―入部・不継続理由について―　健康科学,38,pp33-41

鈴木昌，西中直也，上原大志，永井英，酒井健，筒井廣明，千葉慎一，嘉陽拓，田村将希（2016）関東圏シニアリーグ野球チームにおける現場での肘関節障害発生の現状　日本肘関節学会雑誌　23 巻 2 号 pp 398-401

（2023 年 12 月 16 日受付 / 2024 年 1 月 9 日受理）